

五感を磨き、積極的に対応

県コンクリート診断士会 技術セミナー開く

新潟県コンクリート診断士会（会長・地濃茂雄、新潟工科大学教授）は17日、「14年度技術セミナー」を、ほんぼーと新潟市立中央図書館（中央区）で開催した。



あいさつする地濃会長

セミナーには会員を中心に約60人が参加。開会に先立ち、地濃会長が「コンクリートが長生きするために、その医者を育てることが必要。新潟



今後の診断について考えたセミナー

は合格率も良く、会員が100人を超えている。ものづくりはすべて感性。コンクリートと五感の関係を、帰るころには理解してもらえればありがたい」とあいさつした。

基調講演は地濃会長が講師となり、「コンクリートと診断」について説明。その中で、「鉄筋コンクリート構造物の寿命はいかに内部鉄筋を保護して持続させるか。それをどう判断していくか。現場の職人の感覚はすごい」と述べた。ま

た、パリの建設現場の写真を見せ、「現場の塀に活き活きとした作業員の写真が張っており、子どもたちが憧れていた」と後継者育成に見習うべきと話した。続いて、広瀬歯科医院の広瀬秀院長が「人間身体、五感の話」と題して話し、「五感は人が生きていく上で重要で、人間が生活していくのに必要な情報を得るための感覚である」と述べた。

その後、「コンクリート診断技術のこれまで・これから」をテーマに、地濃会長がコーディネータ、広瀬院長と新潟日報社元編集委員の雨池誠氏、同会の丸山聡会計監事（ダイアテック代表取締役社長）、遠山潤事務局長（クリエイトセンター常務取締役）がパネリストとなり、パネルディスカッションを行った。

広瀬院長は「コンクリートは人間の感覚で診断することが大事。人間と同じく予防が大切になる」、雨池氏は「過去の歴史を生かし、他の分野の人と連結していけば希望が開けると思う」、丸山会計監事は「診断業務などの維持管理とともに、新設の品質確保にも力を入れていく」、遠藤事務局長は「若手技師を集めて育てることが重要。魅力ある業界なので土木の学生を増やしてもらいたい」と意見を述べた。

地濃会長は「五感を磨く、前向きに捉える、積極的に対応する、好奇心を持つなど人間の幸せを考えながらやっていきたい」と思いを語った。